

平成27年度 第2回学校協議会記録

日 時：平成27年 11月18日（火） 10時～12時
場 所：校長室

- 開 会 本協議会の成立確認 配布資料確認
- 学校長あいさつ
- 会長挨拶
- 協 議
 - 【1】 学校経営計画進捗状況について 校長及び首席より報告
 - 1 特別支援教育のセンター的機能の強化
 - 2 いずみインクルーシブ教育推進センターについて
 - 3 障がいや発達状況に応じた教育の充実
 - 4 安全安心な学校づくりの推進

〈質問・意見等〉

- ・居住地校交流について、私の子どもは卒業して2年経つが、当時は保護者への希望を聞くプリントは配布されてなかった。時代とともにそういう良い取り組みがされるようになって良かったと思う。息子は小学部から本校に通学したので、地元の子どもは全く知らない。先日避難訓練が、自宅前の中学校で行われ、参加の誘いがあったが、実際は行けない状況だった。そういう意味でも、居住地校交流は是非進めていってほしいと思う。よろしくお願いします。
- ・地域支援整備事業について、3市1町と広範囲に行っているようだが、和泉市には21校の小学校がある。資料には3校の学校があがっているがこの3校は、支援学校の方が選んで行っているのか、それともこの学校から相談を受けたから行っているのかどちらか。また、21校全部を満遍なく行く予定があるのか。小学校へ行くことで、色々な交流ができ良いことと思うが、行く学校が限られてしまわないか。
→相談については、希望のあった学校へ行っている。申し込みについては、各市町教育委員会へ各学校から相談票を提出してもらい、各市町教育委員会から本校へ依頼の連絡が入るようになっている。昨年度までは、直接各学校から本校へ申し込みの連絡が入っていたが、相談の内容を各市町教育委員会が把握する方が良いことから、今年度よりこの方法をとっている。希望のあった学校からの依頼により行っているため、確かにご指摘の通り、行く学校が限られてしまっている。
- ・PR活動はどのように行っているのか。
→この事業は大阪府が行っており、府を7つのブロックにわけ、各ブロックごとに会議を行っている。会議には、各市町教育委員会の指導主事やリーディングチームの教員と各支援学校の管理職やリーディングスタッフが出席し、各校の取り組みについて情報共有している。各支援学校が相談を行っていることは、会議で伝えているので、各学校へは各市町教育委員会を通じて広報されている。
- ・この事業は、本校が主になって行っているのではなく、府の事業である。この地域

(3 市 1 町と堺市)は、本校だけでなく、堺支援学校、泉北高等支援学校も一緒に行っている。和泉市についてはほぼ本校が対応している状況である。ただ、堺支援学校は、肢体不自由の学校であるので、そういった相談については堺支援学校が行っている。視覚、聴覚については広域になるため、視覚支援学校、堺聴覚支援学校、だいせん聴覚高等支援学校が担当している。

- ・進路について、就職にむけて“能力”よりも“気持ち”が大切であるということは、確かにその通りだと思う。就職に対する意欲を高めるために、どのような指導を行っているのか。

→就労意欲を高めるための取り組みとしては、校内実習を通して、仕事に向き合う気持ちや姿勢、意欲を伸ばしていこうとしているが、支援学校に入学してくる子どもたちの様子が変わってきている。本校が進路指導として取り組んできた福祉就労ではなく、一般の就労をしたいという希望を持っている子が数名でてきている。障がい者としてでなく、自分で働く場を探し、就職したいという気持ちを持っている。

- ・そういう子どもたちは、どういうふうに就職活動を進めるのか。

→保護者と連携しながら、就職活動に向けてサポートしている。学校からの就労でないため、直接ハローワークに相談することになるが、就職が卒業後になってしまうので難しい面もある。昨年度は1名の生徒が東京に出て、自分で就職先を探し、住み込みで働いている。そういう生徒もいるので、一概に本校からの就職だけではなくなってきた。また、就労にむけて指導を進める中で、もう少し力をつけてから一般就労したいと思うようになり、実習先に福祉事業所を選ぶ生徒もいる。

- ・作業所によっては、一般就労をめざすことを中心にしている所もあれば、そうでない所もある。そのあたりの選択も大事である。準備の問題で、まずは就労支援施設という選択肢は当然あると思う。

- ・就職をめざす子どもの数は、年によって大きくばらつきがある。昨年は10名程度いたが、今年は若干少ない。

- ・私の子どもの学年やその前のところから、子ども間の能力差が顕著になってきている。中学部から入学した子と小学部から入学した子とでは、差が歴然としているし、能力の高い子たちがいるという事実を認識した上で、これから先を考えて、一般就労にむけた準備が学校として必要であると思う。他校のPTAの発表の中では、オヤジの会を連携させている所もある。学校だけでなくPTAも連携させながら就労にむけてのプログラム作りをしてもよいのではないか。

- ・一般就労を希望すれば就労先は、学校としても開拓している。

昨年度はスターボックスや介護施設へ就労している子どももいる。

- ・進路から高等部卒業生の進路先は、情報として流している。

- ・中学部でも卒業生の進路先は情報として流しているが、中学部卒業後の進学先についての情報が多くなっている。就労についての情報は少ないと思う。

今年度はPTAの学部懇談会で、小・中学部も進路指導の教員が出席し、進路についての話をする機会を持つようにした。

- ・中学部では、職場体験はしているのか。私の勤務先では、中学校からの職場体験を5校くらい受け入れている。中学部段階でもそういう機会が1回でもあれば、就労に対するイメージを子どもたちや保護者が持ちやすくなるのではないか。

→中学部では、生活という授業の中で進路に関する学習、性に関する学習、防災に

関する学習を行っている。主に2年生では、将来の進路選択に向けた学習として卒業生の体験を聞いたり、就労にむけて作業所の見学や市役所福祉課の見学を行っている。実習というところまではまだできていないが、就労にむけた学習を一つの柱として、指導を行っている。

- ・安全・安心な学校作りの推進という点で、校内だけでなく校外、通学路（信太山駅から学校までの間）に池上町会では4月に初めて防犯カメラの設置をした。子どもたちにとっても安全性が高まったと思う。
- ・センター的機能の強化については、府の事業としてだけでなく、本校の取り組みとして充実させていくことは大事なことであり、そのシステムができることが大事なことであり、特に幼稚園からの相談が多いことが特徴的なことで、早期の段階から保護者や幼稚園の教員の力量を高めることが、インクルーシブ教育の最も重要な側面である。交流及び共同学習についても、推進センターを作り取り組まれていることは、すごく新しい動きである。どんどん推進してもらいたい所であるが、相手校の教員の負担にならないように、むしろ交流を通して自分たちの授業作りや学校経営に得をするような情報提供を、しっかりとすることが大事である。また、交流及び共同学習が学校の特別な行事にならないよう、「支援学校が言ってくるから学校として特別に取り組もう」ということでなく、通常の授業の中であたり前のこととして行うことで、子どもたちも自然な形で入っていけると思う。その辺りも考えて進めてほしい。

【2】学校教育自己診断（保護者・教職員）について

結果と分析及び学校の取り組みについて 首席より報告

【3】使用教科書について

教頭より報告

〈質問・意見等〉

- ・学校教育自己診断の結果では、肯定的な結果が多い中、やはり施設設備については厳しい意見となっている。
- ・施設設備については、昨年度末に学校協議会からも答申いただいて、大阪府教育委員会の方へお願いしている。何度か視察に来てもらい、口頭では和泉支援学校の現状は認識したとの話しであったが、その後の正式な文書での回答はもらっていない。
- ・保護者の結果を見ると、6割強の人が肯定意見となっている。現状でも良いという判断をしているということだ。この点については、5割以上の人が問題ありと判断すると思っていたが、意外に興味がないのか、きちんとした認識がされていないのか、もっとPTAが主導して強く訴えていかないと教育委員会を動かせないのかと思う。今PTAとして署名を行うかどうかを考えている所であるが、今後の課題として子どもたちの安心・安全を守るために署名も必要ではないかと思った。
- ・高等部の見学者に対しては、説明する機会があったので現状を伝え、子どもたちの安全・安心について十分な環境でないことをお詫びとして話をしている。また、小学部の交流で来校した小学校の教員に向けても、授業後は必ず片付けをしないと次の授業に支障がでるような危機的な環境であることも説明している。地域の小学校と比較して、1クラスの子どもの人数が支援学校は少ないため、余裕があるように見えてしま

う。支援学校の適正人数ではない点を、アピールしていかなければならない。

【4】その他 ICT機器に関する研修について

○会長まとめ

就労について、これまで学校が行ってきた進路指導から離れて、自分で就労先を探したいという生徒、保護者が出てきているという現実がある。それに対してどう指導していくかということをもPTA等とも協力しながら、新しい就労指導のあり方を模索していく必要がある。また、ハローワークとの協力もしながらどういう支援が受けられるか、検討する必要がある。

安心・安全な学校作りについては、地域の方でも防犯カメラの設置を進めているということで、学校内だけでなく通学路等学校外の安心・安全についても地域との協力を進めることが大事である。

今年度より新たに組み込まれているインクルーシブ教育推進センターについては、様々な取り組みを積極的に進めているが、今後もますます推進して欲しい。

学校教育自己診断の結果については、施設設備の大きな課題が残っているが、この件については校長先生が精力的に動いておられるが、PTAも協力しながらさらに進めていってほしい。また、こういったアンケートで肯定意見が8割を上回ってくれば、次には否定的な意見に対しての検討をし、改善を進める必要がある。こういったことも今後検討を進めてほしい。支援学校がICT機器を使用し、学習効果を上げていることを地域に広めるため、研修を行っていることはとても重要なことである。今後も継続して欲しい。これで第2回学校協議会のまとめとさせていただきます。ありがとうございました。

○学校長お礼

○次回連絡 平成28年 2月 10日(水)